

このプリントは提出する必要はありません。
成績には関係ありません。

✿ 単元名『この詩の良さはどこにはあるのか』

教科書P 16～17

春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう

目に見えないエネルギーの流れが

大地からあしのうらを伝わって

ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ

声にならないさけびとなつてこみあげる

この気もちはなんだろう

枝の先のふくらんだ新芽が心をつくづく

よろこびだ しかしかなしみでもある

いらだちだ しかもやすらぎがある

あこがれだ そしていかりがかくれている

心のダムにせきとめられ

よどみ渦まきせめざあい

いまあふれようとする

この気もちはなんだろう

あの空のあの青に手をひたしたい

まだ会つたことのないすべての人と

会つてみたい話してみたい

あしたとあやつてが一度にくるといい

ぼくはもどかしい

〔読み〕こと エ

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、

人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」

地平線のかなたへと歩きうづけたい

そのくせこの草の上でじつとしていたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとりで黙つていたい

この気もちはなんだろう

課題①「春に」という詩を、言葉に着目しながら音読しよう。

✿ 大声を出す必要はありません。自分だけに聞こえるくらいの大きさで、言葉を丁寧に読んでみよう。

課題②「春に」という詩に遣われている表現技法を見つけよう。

参考

冬に 谷川俊太郎

ほめたたえるために生れてきたのだ
ののしるために生まってきたのではない
否定するために生れてきたのだ
肯定するために生れてきたのではない
無のために生れてきたのではない
あらゆるもののために生れてきたのだ
歌うために生れてきたのだ
説教するために生れてきたのではない
死ぬために生れてきたのではない
生きるために生れてきたのだ
そうなのだ私は男で

夫で父でおまけに詩人でさえもあるのだから